

記入日(記載例)	(西暦) 20●● 年○○月○○日
所属機関の名称	株式会社○○○○ (個人で生産・販売する場合、この欄は記入不要)
記入者	◎◎◎◎
住所	★★★市○○町●●字■■-××
電話番号	○○○-△△△△-▲▲▲▲
メール、FAX	メール:***@*****、FAX:○○○○-△△-▲▲▲▲

有機質土壌改良資材等の種類※1	竹パウダー
有機質土壌改良資材等の形状※2	粉状

※1 本チェックシートは有機質土壌改良資材(落ち葉、雑草、剪定枝、樹皮、木材チップ・パウダー(樹皮あり)等)の種類ごとに作成すること

※2 利用する状態の有機質土壌改良資材等の形状(例:泥状、土・粉状、塊状、棒状、つる状等)や乾燥状態、大きさ等を記載する。

1. 原料の収集(記載例)

原料名	竹
収集年月(西暦)	20●● 年 ◆◆ 月 ~ 20●● 年 ○○ 月 頃
収集場所(施設名、住所、範囲、地目等)	①竹林(★★★市○○町●●字*) ②竹林(★★★市☆☆町★★字@@)
長期間手入れ・清掃されずに堆積したままとなっている場所から収集を行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> (行っていない)
特異点(窪地、側溝、吹きだまり等)から収集を行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> (行っていない)
土壌が混入しないよう収集している	<input checked="" type="checkbox"/> (混入しないよう収集している)

該当する箇所に☑を入れてください

※自治体等が収集した原料を譲り受ける場合は、提供者から聞き取って記載すること

2. 原料の堆積(記載例)

副資材(おがくず、刈草等)	<input checked="" type="checkbox"/> 副資材なし
他ロット、土壌等と混ざらないように管理している	<input checked="" type="checkbox"/> (管理している)
入手元不明なおがくず等を原料として使用していない	<input checked="" type="checkbox"/> (使用していない)
暫定許容値を超えたものを戻し堆肥として使用していない	<input checked="" type="checkbox"/> (使用していない)
今回の生産ロット数	(数字) 2 ロット

該当する箇所に☑を入れてください

都道府県担当者確認欄	<input checked="" type="checkbox"/> 確認済	← この箇所は記入しない
------------	---	--------------

3. 製品の生産(記載例)

土壌が混入しないよう管理している	<input checked="" type="checkbox"/> (管理している)
他ロットと混ざらないように管理している	<input checked="" type="checkbox"/> (管理している)
定期的に切り返しを行い、十分に混和している	<input checked="" type="checkbox"/> (混和している)

該当する箇所に☑を入れてください

4-1. 製品の分析 (記載例)	
通知*と同じ検査方法を採用している	<input checked="" type="checkbox"/> (採用している) 通知番号*(数字) ②
ロットの考え方	採取した竹林ごとに竹を粉碎して竹パウダーを生産するため、採取地ごとに1ロットとする。
試料の採取(サンプリング)方法	ロットごと、生産した竹パウダー全てを1つの山にして、写真のとおりO箇所から採取して1次試料を作成した。1次試料を円すい四分法により縮分し、2kgまで縮分した。
試料の前処理方法	資材は粉状のため、前処理は行っていない。 測定容器に詰めるときには、空隙が生じないように注意した。
分析事業者(団体)名	★★★★直売所
測定に用いた機器(どちらかに☑)	<input type="checkbox"/> ゲルマニウム半導体検出器 <input checked="" type="checkbox"/> 簡易検出器(NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータ等)
測定結果①	製品重量(又は体積) (数字) 1 kg
サンプル番号* * ○○○ 社-A1-1- 230530- 12:00-竹パ ウダー	どちらかに☑ <input checked="" type="checkbox"/> (数字) 50 ベクレル/kg <input type="checkbox"/> 定量下限(値)未満(検出下限(値)): ベクレル/kg
測定結果②	製品重量(又は体積) (数字) 1 kg
サンプル番号* * ○○○ 社-B1-1- 230530- 12:00-竹パ ウダー	どちらかに☑ <input type="checkbox"/> (数字) 測定でNDの場合は定量 下限値(Cs137)を記入 ベクレル/kg <input checked="" type="checkbox"/> 定量下限(値)以下(定量下限(値)): 25 ベクレル/kg
測定結果③	製品重量(又は体積) (数字) kg
サンプル番号* * ○○○ 社-C1-1- 230530- 12:00-竹パ ウダー	どちらかに☑ <input type="checkbox"/> (数字) ベクレル/kg <input type="checkbox"/> 定量下限(値)以下(定量下限(値)): ベクレル/kg

* 有機質土壌改良資材等の形状や生産方法等から、次に掲げる通知等を参考に、検査対象ロットの考え方、試料の採取方法、試料の前処理方法について記載すること。また、採用した通知番号を記載すること。

- ①「培土中の放射性セシウム測定のための検査方法」(平成23年8月31日付け農林水産省生産局農業生産支援課長、農業環境対策課長通知)
- ②「肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画及び検査方法」(平成23年8月5日農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知)
- ③「飼料中の放射性セシウムの検査方法について」(平成23年8月3日付け農林水産省消費・安全局畜産安全管理課長通知)
- ④「調理加熱用の薪及び木炭の放射性セシウム測定のための検査方法」(平成23年11月18日付け林野庁林政部経営課長、木材産業課長通知)
- ⑤「土壌改良資材として利用される木炭・木酢液中の放射性セシウム測定の扱いについて」(平成23年10月7日付け農林水産省生産局農産部農業環境対策課長通知)

※※ ロット毎に以下のとおりサンプル番号を付し、1検体ずつサンプルを採取・分析すること。

<番号付与の例>

○○社 - A1 - 1 - 110805 - 12:00 - ○○資材

(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ)

(ア)採取実施機関名

(イ)地点記号(試料を採取する各地点名とアルファベットを対応付けておく)

(ウ)連番(地点記号ごとに1から順番に付与。複数日に渡り資材を採取する場合は前の番号の次から開始)

(エ)採取年月日(西暦下2桁月2桁日2桁)

(オ)梱包を終了した時刻(24時表記)

(カ)資材の種類

該当する箇所に☑を入れてください

4-2. 必要書類の添付 (記載例)	
4-1で分析した試料について、別添として製品ロットNo.毎に、旗印等の目印を付けてロット中のどこから採取したのかわかる写真を添付している	<input checked="" type="checkbox"/> (添付している)
4-1で分析した試料について、別添として製品ロットNo.毎に、縮分しているところの写真を添付している	<input checked="" type="checkbox"/> 添付している <input type="checkbox"/> 縮分していないため添付していない
4-1で分析した試料について、別添として分析事業者からの分析結果報告書を添付している	<input checked="" type="checkbox"/> (添付している)
都道府県担当者確認欄	<input type="checkbox"/> 確認済 ← この箇所は記入しない → <input type="checkbox"/> 問題あり(出荷を自粛してください)